

名古屋支部

名古屋市消防局と解体ビル現場で合同訓練 ハイパーレスキュー隊も参加

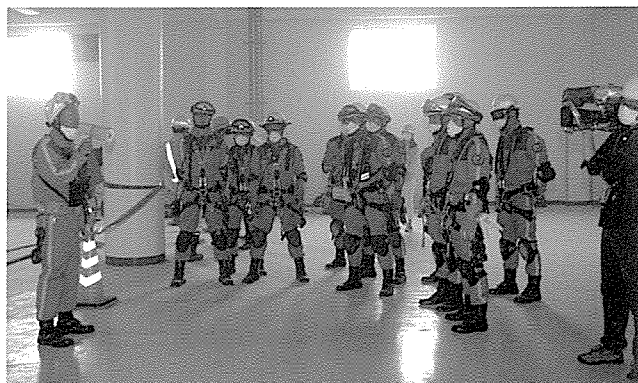
名古屋支部（新美三良支部長）は6月7日（火）解体ビルの現場（三幸電子株式会社鶴舞倉庫／名古屋市中区）を利用して、名古屋市消防局と災害時の人命救助を想定した合同訓練を行いました。

合同訓練には永井弘児副支部長ら委員13名と名古屋市消防局から9名、特別消防隊（ハイパーレスキュー隊）10名、当協会から副会長の平沼辰雄氏、事務局長の小坂元信氏が参加しました。また、訓練にはコンクリートの床を開口するため、支部会員企業の協力をいただきました。

午前中は消防局職員の方々と訓練が行われ、合同訓練は午後から行われました。訓練は3階に救助を待つケガ人がいるという想定のもと、4階に上がりコンクリートの床を開口して、その上にレスキューフレームを組立てケガ人を救助する、レスキュー隊の一連の作業を見学しました。



現場は窓を閉め切った状態で、その中でブレーカーでコンクリートを砕き、サンダーで鉄筋を切断する作業が行われ、音・振動も轟き室内が砂ぼこりで充満し、本番さながらの訓練に驚きの声が上がりました。



また、同時に音も振動もなくコンクリートの床を鉄筋ごと切る、特殊な機械のダイヤモンドワイヤーソーを使って切断が行われました。この機械は床に穴を開け、開通部分に糸を通し、コンクリートを三角形に切るもので、解体業ならではの特殊な機械です。音や振動を避けて作業を行う、病院のコンクリート開口によく使われます。

訓練を終えて、災害時における実践のレスキューの凄まじさを目の当たりにして、組織的な対応力が大切であること、産廃業者のノウハウも役立つことが実感できました。訓練当日はテレビ各局、新聞社から報道陣が詰めかけ、訓練の一部始終を取材し、その日の夕方のニュースで放映されました。

